

第10回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 平成31年2月21日（木） 15時00分～16時00分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】 1. 当院の概況等について
2. 自由討議
- 【出席者】 熊谷 豊一 （医師会／可児医師会長）
伊藤 陽一郎（行政・県／可茂保健所長）
井上 さよ子（可児市役所こども健康部長・可児市長代理）
池ヶ谷 幸治（利用者／自治会長）
岩崎 透 （利用者／自治会副会長・代理）
平井伸太郎 （利用者／自治会副会長）
岸田 喜彦 （院長）
奥村 明人 （事務部長）
野村 郁子 （看護部長）
平田 知也 （総務企画課長代理）

【議事録】

○議題1

当院の状況等について（パワーポイントを使用し、概要、財務経営状況、患者数について説明）

以下概要

- ・地域包括ケアセンターの看板設置について報告
- ・地域包括ケアセンターへ訪問リハビリテーションの機能を移動（4月より）
- ・外科医2名の退職により1名体制に変更（4月より）
- ・今年度の財務状況は労働基準監督署の指導があり、黒字維持が難しい
- ・来年度は外科の減少も相まって経営状況は現状維持が限界

○議題2 自由討議

【院長】

当院としては、市民病院のない可児市において唯一の公的病院として役割を担っていると自負していましたが、急性期病棟が無くなってしまったら、老健や健診だけでは地域医療を守れるわけではないので、当院がやれる限りは対応していかなければならないと考えています。現時点では明確な解決策があるわけではないので、やれる範囲内としかお答えできませんがどこかで破綻するのではないかと心配しています。外科が無くなるということは、他の科への影響も大きく、交代要員も期待できませんが、

1名は残ってくれるためこの体制をできる限り維持したいと考えています。

【医師会】

いつも院長先生がこうなってしまったことを自分のせいのように謝られるが、全国的な医師不足や地域医療構想の制約によりどこの病院も苦勞していることだと思います。

看護学校については実習ができなくなってしまうと学校自体の運営が難しくなっていくことも心配しています。今年も受験がありましたが、この地域の学校は全体的に学生が減っているようです。当校を受験された学生さんの中でも大きな実習病院が受け入れてくれる学校に取られてしまったという事例もあるため、実習病院の確保は課題になっているのが現状です。

具体的な解決策があるわけではないと思うが、もう少し病院を盛り上げられることは何かないと期待しています。病院に特別な落ち度があったわけではないと思うし、このような状況になっても可児市の市民病院的な役割を果たしてきたので、状況が悪いからと言って市からの助成を縮小するようなことがあってはいけないと思います。その辺りは可児市からもお話が伺えればと思います。

地域包括ケアシステムの話も出ましたが、これについても皆の意識が芽生えて初めて盛んになるものだと思うし、病院が悪いからといって後退してはいけないと考えています。

【行政・県】

救急車が現在は月80台くらいであるが、外科の医師が1名になるとどのような数になると想定されてみえますか。

【院長】

現時点でも脳外疾患等が受けられないということで、もともと多発外傷等を受けておらず、内科系の受入にも変更はないため、日中の救急車の受入に大きな影響がでることはないと考えている。

ただし夜間については体制が弱くなることで、受けられないという状況が発生することは心配されます。ただし、今年の12月、1月は管内で救急車の断りが倍増したという話もあり、この地域の急性期医療が充足しているわけではないため、地域の住民の方々に迷惑がかからないように、できる限り受入れていきたいと考えています。

【行政・県】

地域住民の方は可児とうのう病院に非常に期待していると思いますが、マンパワー不足になると、可児市の市民病院として急性期を維持できないことが心配されます。

可児市だけでなく地域として可児市、美濃加茂市等の行政や医師会を含めて広域で地域の急性期について考えていかなければいけないのではないのでしょうか。

【院長】

ありがとうございます。可茂地域において他の病院が満床となっても今までは何とかバックアップできていたが、今月においては当院も満床であった現状も想定すると、より広域な検討も必要だと思います。

【行政・県】

入院患者さんがたらいまわしにならないように連携も必要であるが、今後は退院患者さんの連携も重要ではないかと個人的には考えています。

【院長】

可能な限りまた多少の無理は仕方ないと思っていますが、双方に受入可能な疾患が限られているため、やれる範囲内で連携を行っていきたいと考えています。

【可児市】

可児とうのう病院はJCHOになる前より可児市の健康増進から医療までを担ってくれていたと感じています。また、現在も紹介にあったような介護のシステムの向上にも積極的に協力、ご指導をいただいております。特に健診については昔から中心となって可児市の健康管理を支えていただいている大切な病院だと思っています。この度の外科の問題は、以前の脳神経外科や産婦人科の変化のように、全国的な医療事情の問題や働き方改革に起因して発生しているのだと思います。ちなみに、はとぶきの裏にも診療担当表が載っていますが、今後の外科については具体的にどのような診療体制になるのでしょうか。

【院長】

外来は1名が担当日を増やす予定で、今の患者さんを引き継ぐ予定ですが、もともと外科が直接紹介患者さんを受けるとか、飛び込みの初診患者さんを診たりすることは少なかったため、大きな影響は無いと考えています。一番心配されることは、健診センターからの2次健診の受け入れです。現時点でも乳がんの2次健診は予約が取れないくらい受け入れていましたが、今後は専門医の診察が難しくなってしまいます。病院で専門医の診察が受けられないのであれば、他の病院で健診を受けると言われる方は出てくるかもしれません。

【可児市】

2次健診の受け入れは難しくなるが1次健診は変わらずにお受けいただけるという理解でよろしいでしょうか。

【院長】

現時点でできることは、全て維持していくつもりです。患者さんが自分で違う病院へ変わることを希望されることは増えるかもしれません。また、疾患が見つかった場合は他の病院に受け入れをお願いしなければなりません。

【可児市】

外科が無くなることにより、可児とうのう病院で診ることができない患者さんの受け入れ先の連携について準備はできていますか。

【院長】

以前より非公式に近隣の病院長には受け入れを依頼してきました。院内においては、特に消化器内科が外科を頼っていた部分もあったため、その為のバックアップ等も大きな病院2箇所を想定して依頼しています。

【利用者】

地域の方は、可児とうのう病院に期待していた部分も多く、最後の砦と考えています。そのような中、外科の患者さんを外に出すような体制になっていると、他の科も含めて地域全体が不安になってしまうのではないかと率直に感じてしまいます。何とか行政を抱きこんでも頑張っていたきたいです。

【院長】

個人的にも皆さまと同じように何とかしたいという思いはあるが、こういう状況になることは想像もしていなかったもので、どのような対策を取ればいいのか想像もできないですし、現状はこれ以上崩れ落ちていくのを防ぐのが精いっぱいです。

従来も努力してきた医師確保もますます難しくなってくるかもしれませんが、何とか取っ掛かりになればと常勤の無い科も維持しています。いつまでというお約束はできませんが、有難いお気持ちに感謝して少しでも応えられようとしていきたいと思っています。

【利用者】

この会議にお邪魔するのも3回目ですが年を追うごとに減少しているというのが寂しく感じました。今の社会の流れの中で、医師不足の問題はもちろん理解はしていますが何とか頑張って継続していただきたいと考えています。

【利用者】

地方病院の医師不足という問題は、ニュースで見ると通りだと実感させられました。何とか維持していただきたいと思います。

【院長】

ありがとうございます。最初にお話したようにここで具体的にお約束はとてできず、ただひたすら努力としか言えませんが、現実非常に厳しいということは正直にお話させていただきました。決して白旗をあげているわけではないのですが、戦力が減るというというのは非常に厳しいことなので、どのように効率的にやっていくかという点を考えていかなければならないと思っています。

本来はアンケート等を取ってご要望を伺っていくことも想定していましたが、今回は状況が一変してしまったためできませんでした。次回以降の開催については、できる限り市民の方々の意見を取り入れていく方法も考えていきたいと思ひます。最後に皆様にご迷惑をおかけしていることを改めてお詫びしたいと思ひます。

【看護部長】

地域の方々におかれましては大変な不安やご不満があるかと思ひますが、現在は医療機関と地域の方々が協力していかないと地域医療が潰れてしまうというのが現実にあると思ひます。そうならないように当院の職員もできる限り幅広く医療を提供できるように努力しています。特に医療連携室においては、当院だけでなく他の地域にもアンテナを高くして、当院の提供できる医療をアピールしたり、他からの受け入れができるような活動をしたりしています。地域の皆様にはご迷惑をかけないように努力していきたいと考えていますので、これからもご協力をお願いします。

【院長】

だいたい1時間となりましたが、最後にご意見のある方はみえませんか。

【医師会】

外科を初め患者さんの急変時など、医師の緊急呼び出しに対応いただけるかが心配ですが、医師の方々はどこにお住まいでしょうか。例えば、住居の補助などを行うことで医師をサポートしたり呼び込んだりできないでしょうか。

【院長】

若手の医師や独身の医師は近隣に住んでいる方も多いです。ただし、中堅医師は1時間で来院できることもあり、名古屋近辺に住んでいる方が多いです。また、近隣に住むことにより、夜間等も縛られることを敬遠する考え方も多いです。かと言って遠いからいい加減な医療を行っているわけではないため、なかなか強制はできないと思ひます。私たちが若いころとは考え方が変わってきているため、医師を近くに置くことで医療を充実させるという方策は取れないかもしれません。

それでは時間となりましたのでこれで終了させていただきますが、次回の開催は8月を予定していますので改めてよろしくお祈りします。

(終了 16:00)